



聖 鐘

日本聖公会東京聖三一教会

〒155-0032 東京都世田谷区代沢2-10-11
TEL 3421-3646 FAX 3414-9023
URL trinity.web.infoseek.co.jp

牧師 司祭 長谷川正昭

スピリチュアルを斬る

司祭ヨナタン 長谷川正昭

「ナンバーワンよりオンリーワン」という歌が大流行しました。「世界にただけの花」という歌の歌詞のなかに出て来ますが、説教臭さが気になりました。メッセー

ジ性が強すぎるとも言えます。「ありのままに生きる」とか「あなたはあなたそのまま素晴らしい」というのも同工異曲で、確かに癒しと勇気をもたらすメッセージであることは事実ですが、そこにあるのはきわめて楽観的な人間観です。罪とか悪への認識がありません。

このような手軽な癒しを与えてくれるものを総称してスピリチュアルと呼ぶようですが、キリスト教的靈性と相通じるようで、じつは似て非なるものです。誰でも罪や悪を見つめることは気が重いものです。説教でも罪を取り上げるのは昨今あまり流行らなくなりました。

しかし、人間には崇高さ、善意、

愛といった神の被造物としての側面だけがあるのではありません。憎悪、妬み、闘争心のような影の部分があることを見ようとしな

いのは片手落ちというものです。自分の内面を振り返ってみたらとてもそんな生易しい心の現実だけではないことは誰でもわかる道理です。自分が罪人であることを認め神の赦しを願い求める回心によつて救いの劇的な展開の起こるのが聖書の教えです。これがキリスト教の靈性ということであり、決定的に新しい生き方への招きです。

自己の内と外から湧き出す神の力によつて自分自身が変革され、再生させられるという経験です。

そもそも現在のスピリチュアルブームの起源を辿ると1987年に制作された『ベルリン・天使の詩』という映画ではないか、というのが私の見方です。世界的にヒッ

トした映画ですが、どちらかというと地味な作品なので知らない方が多いかもしれません。天使が人間の女性に恋をするというストーリーで、モノクロとカラーの場面が交互に現れるという斬新な手法が使われていました。映画のヒットによつて天使ブームが世紀末現象として巻き起こり、それは今世紀まで続いています。興味深いことにキリスト教を受け入れているとは言えない我が国にまでブームのおこほれは及んでいます。天使グッズを扱う専門店まで出来ている始末です。しかし、ここにあるのは天使崇拜にも至らないような、たんなる彼岸的憧憬か、もつと悪く言えば現実逃避の退廃に過ぎないのではないかと、と疑わざるをえません。

しかし、勇ましいタイトルをつけてはみたが、「反対しない者は、味方である」(マルコ9:40)というイエスの教えもあるから、スピリチュアルブームは、福音の前理解として評価すべきであると考えるのがバランスの取れた見方というべきでしょうか。

【2009年度受聖餐者総会】

東京聖三教会の2009年度の受聖餐者総会(議長・長谷川正昭司祭)は、2月8日(日)の主日礼拝後、礼拝堂に受聖餐者86人(委任88人)が参加して開かれた。提出された08年度教務報告、09年度宣教司牧方針および08年度決算案、総額2540万円に上る09年度予算案などの議案を原案通り可決承認、新年度の教会運営、教会活動がスタートした。

冒頭、長谷川司祭は

主題Ⅱ「神の家族としての成長
Ⅳ」標語Ⅱ「真の宣教共同体をめざして(宣教150周年の年に)」
聖句Ⅱ「道で話しておられる時、また聖書を説明してくださった時、私たちの心は燃えていたではないか(ルカ24:32)」とする09年度の宣教・司牧の基本方針を掲げ、要旨、次のような3方針を提示した。

「私たちはどのような時代に生きているか」

★現代は「終りの始まり」という言葉がびったりする大転換の時であり、何百年かに一度の変革の時である。その理由の二にプロテスタント信仰の核であった「聖書のみ」「信仰のみ」とする原理がもはや機能不全に陥っているため、キリスト教が提供する救済の言語が人々の心の深層に届かず、リアリティーを失って遊離しているという現実がある。

★このことを踏まえて私たちに求められていることは「言葉の信仰」の洗い直しということである。聖書の言葉を聞いても私たちの反応は鈍く、リアリティーがあまり感じられない。言葉だけが実態を失ったまま、日常性の中に消え去ってしまった。「言葉の信仰」を洗い直すためには、「身体の信仰」という観点を回復するしかない(プロテスタント神学には無く、カトリック教会、東方教会に残存していると思われる)

★換言すると「行としてのキリスト教」を回復する以外に、「言葉の信仰」の洗い直しはあり得ないということになる。このことを日常生活の中で実践するために、日に5分でも10分でも時間を割く必要があるが、問題はこのことの持続性、継続性をいかに確保するかであり、現代のキリスト教の最大の課題である。

「教会の現実をどう見るか」

★私たちの教会はローマ・カトリック教会の伝統を多く共有している。聖職制度、教会制度を初代教会時代から受け継いでいる。そういう意味で聖公会は、カトリック教会、東方教会とともに使徒継承の教会であり、原理主義、教条主義を排し、自由な信仰を尊重し、「多様性の中の一致」を大事にする教会である。

私たちの教会の制度疲労を克服する道は、初代教会を導いた「助け主」「弁護者」である聖霊の働きに身を委ねることである。高齢化と若年層の不足を補う教会の活力をそこに求めるほかはない。私たちの教会の風通しを促進し、熱い信仰を回復してくれるものは、見えざる手を持った聖霊の力である。

★東京聖三教会は活力溢れた教会である。その潜在能力は想像以上のものがあると思う。音楽的賜物、事務能力、礼拝への熱意、学びの意欲など、優れた豊かさがある。しかし、半面、月約献金は大教会にふさわしくない貧弱さである。小人数の教会が驚くほどの負担額の献金をしていることを思えば、この現実をどう受けとめるかが問題である。

「私たちはどこに向かうのか」

★宣教のための原動力としてインターネットの活用がある。今後、教会の業務、宣教活動は、インターネットの活用なしには考えられない時代になった。教会に新しく来る人々は、まずホームページを検索して来る時代である。ただインターネットの弱点は「顔が見えない」ことだ。私たちは顔と顔を合わせる人間関係が極めて重要であることに留意すべきである。

宣教のあり方の一つとして、地域集会の可能性を探ることだ。現在、当教会には多くの地域から信徒が来ている。世田谷、横浜、川崎、多摩などの各地域ごとの集会を教会で行い、その積み重ねの中で、休眠信徒の掘り起こしと求道者の開発をめざすことである。そしてその実績をもとに「家の教会」の拠点づくりを考えたい。

★高齢化の時代を受けて壮年層と婦人層の働きを総合的に考えたい。婦人会の解散は、教会の働きを限られたグループだけで担うことの不毛性という時代的な要請から出てきた必然的なものである。しかし、婦人会の解散で拠り所を失ったと嘆く方々の存在も無視できない。枠組みを超えた働きが必

要とされている。

★教会の実力は名前の大きさではなく、内面的、質的力量にこそある。塩が塩味を失うと捨てられるが、教会が塩味を失うと社会と教会自体に害毒を及ぼす。安価な恵みで満足するのは教会の許されない宿敵であり、十字架、イエス不在の恵みである。福音は貧しい者、苦難を受けている者、いと小さき者に宣べ伝えるものである。安楽で安定した秩序の中で、イエス・キリストをその安定構造の保護者、擁護者と信じたいと思う教会は、キリストの体としての教会ではない。私たちはこのような日常的安逸から越えていかなければならない。

◆2008年度収支決算 1178万円の赤字計上

08年度は教区分担金の増額を背景に、当初から133万円の赤字予算で編成したが、その見込み通り178万円の赤字を計上する結果となった。教会収入の柱である献金額は、信施金、月約献金などは予算額をわずかに達成したが、クリスマス・イースター献金、感謝記念献金などは予算額を下回ったこともあり、献金総額では予算額を約58万円下回った。またその他収入を加えた経常収入総額でも予算対比で36万円下回った。

一方、経常外収入面で大口献金(指定)もあり、予算対比で約1000万円上回り、結果的には08年度の収入総額は、その同額分だけ予算額を上回った。

しかし、支出面では聖堂内改修による多額出費(660万円)もあり、結局、収支差し引き178万円の赤字を計上した。この二年の教会財政は、結果的に教区分担金の増加を吸収し切れなかったことになる。教区分担金の増加は、各個教会財政に次第に重荷になりつつあるのが現実であり、会計担当者は「教区分担金の増加は、教会会計の問題というより教会全体の問題であり、教区レベルで早急に対応策を練る必要がある」との認識を示している。

◆2009年度収支予算

◆当初から赤字計上予算編成
予算総額は2154万円で、前年支出実績を1430万円下回ったが、前年同様、今年度も当初から192万円の赤字を見込んだ予算編成となった。これは教区分担金の増額(約42万円増)が主な理由。宣教費(総額98万円)は窮迫した財政事情ながら予算申請を可能な限り承認し、さらに宣教活動予備費20万円計上した。なお教区分担金は前年比42万円増の1544万円。

その他主な支出項目は次の通り
(単位千円)

- ・祭壇費 344
- ・宣教関連費 3519
- ・集会所台費 124
- ・代沢子供文庫 40
- ・コンサート 100
- ・研修費 51
- ・クリスマス・イースター 120
- ・三三映画会 51
- ・受洗者祝い等 20
- ・印刷・図書費 176
- ・日曜学校費 235
- ・ワイリピン交流費 100
- ・韓国交流費 30
- ・事務スタッフ費 120
- ・庭木剪定 300
- ◆08年度バザー収益献金先
チャリティーバザー収益金の70%、115万円を次のカ所に献金した。
- ・アジア学院 20万円
- ・アルディナウベロ 20万円
- ・日比懸け橋基金 10万円
- ・カパティラン 10万円
- ・ワイリピン中央教会 10万円
- ・エリザベス・サンタースホーム 25万円
- ・NCC海外医療援助 10万円
- ・四川地震災害援助 10万円

◆09年度教会委員

- 五十嵐美奈 江川素子
- 後藤 務 砂田郁朗
- 中野 誠 名倉裕子

- ◆事務スタッフ
- 菊池英男 西依彩
- 西澤功幸 名倉敏
- ◆教区会信徒代議員
- 本多峰子 後藤 務
- 加藤啓子 補欠・千村雅信

◆過去5年間の受聖餐者数推移(人)

年	04	05	06	07	08年
受聖餐者数	263	259	229	223	224

◆過去5年間の主日礼拝平均出席者および陪餐者数

年	04	05	06	07	08年
出席者(人)	105	100	93	90	91
陪餐者(人)	93	93	83	81	82

(総会関係記事文責、松田義夫)



大齋講話 聖公会の過去と未来

司祭 西原廉太

世界の聖公会はどのくらいの大きさを持つているか、御存知でしょうか。公称、8000万人の信徒を抱えています。世界のキリスト教会の中で最も大きいのは、ローマ・カトリックで、9億人。次はギリシャ正教で、一億5千万人。その次が聖公会。その次はルーテル教会です。WCCという「世界教会協議会」のカテゴリではプロテスタントの中に数えられず、独立した扱いになっています。それくらい、世界の教会の中では、大きな交わりになります。

アングリカン・コミニオン、世界聖公会のホームページによりますと、現在、世界には44の管区があって、166カ国にまたがっています。すべての大陸に聖公会の教会があります。見なさないようなドイツとかフランスにもあります。ヨーロッパ教区といって本部はロンドンにあります。先日、京都で会議がありました。ヨーロッパ教区主教の「ローエル主教が来られました。主教の管轄の範囲は、北ドイツから、南

はマルタ島まで含まれていて、「どうやって巡回しているのか」と聞いたら「いや、あまりしていない」と言っていました。それくらい広い教区です。日本ではなかなか考えにくいことですが、世界聖公会のレベルでいくと、教会の枠を超えて政治や経済にも大きな影響力を持っています。聖公会は国連の公式NGOなんです。つまり、投票権・代議員資格を持っています。これはローマ・カトリックと聖公会だけです。



昨年、ランベス会議の二コマですが、主教さんたちは、日だけロンドンにカタベリーからバスで行きまして、国連決議にもとづいて貧困撲滅、人権擁護というプラカードを掲げてキャソック姿で大行進しました。先頭はローワン・イリアムズ・カンタベリー大主教ジョン・セントラム・ヨーク大主教そして、世界中

の主教さんたちが後に続きました。

ちなみに、ヨークの主教はウガンダの方で、歴史上、初めてイングリッド人ではない方がヨークの大主教になられたのです。カンタベリー大主教もウエルズ人です。これも聖公会史上初めてです。

行進後、ランベス宮殿で主教さんたちを出迎えたのはブラウン首相です。ブラウン首相はランベス会議のゲストでしたが、非常に格調の高い演説をされました。ブラウン首相のお父さんは長老派の牧師だそうですが、説教のような、素晴らしい演説で、日本の政治家にも聞かせてあげたいくらいでした。

ブラウン首相がランベス会議に来て演説する、あるいは主教さんたちがロンドンで行進する。その模様がBBC放送のトップニュースに流れる。今、英国でも聖公会の教勢が落ちてきていると言われますが、しかし、依然として政治や経済におよぼす聖公会の影響力は大きいということを実感した次第です。

ここで、ランベス会議の歴史について簡単に触れておきます。これは19世紀後半に遡ります。この時代は英国の教会から世界中に宣教師が派遣されましたが、ハイチャーチとローチャーチの緊張感が高まった時代でもあり

ました。それから、宗教と科学、文化とキリスト教を巡って論争が活発に行われました。そういう中で、二つの象徴的な事件が起こります。南アフリカ聖公会で1861年に起こった「コレンソ事件」です。ナタール教区のジョン・コレンソ主教が南アフリカの文化の一つである「夫多妻制」を容認するかのような言動をとり、南アフリカ聖公会のケープタウン大主教、ロバート・ブレイ大主教によつて破門させられるという事態になりました。これが英国の議会を巻き込む「大論争」に発展するのです。この背景には、ハイチャーチ、ローチャーチという確執だけでなく、文化とキリスト教、土着の文化と福音をどのように結びつけていくのかという問題があります。これは南アフリカだけの問題ではありません。日本に来た宣教師たちも苦労した問題です。神道や仏教、土着の文化の中で、どうしたら福音を伝えられるか。妥協すべきか、しないべきか。これは非常に今日的な課題です。こういう問題を協議し、一緒に考え、悩み、解決策を見出すための全世界の主教会が提案されたのです。(以下次号)

※講話のテーパー起し 高橋牧さん

山下昇さんへ

エリザベツ 小原美子

貴方が私の前にあらわれたのは、いつのことだったのでしょうか。ずーっと考えているのですが、どうしても思い出すことができなくて困っているのです。そんなふうに、貴方はいつのまにかあらわれて、いつのまにか私のGodSonになっていて、今はもう「さようなら」

のことばも言わずに天国へと旅立ってしまったのですよね。いつも、ものしずかに存在している貴方だったということ、今さらのように思い出しています。ELの会の合宿で千葉県の旭というところへ行ったとき、竹内司祭が牧師としていらして間もない頃だったと記憶しています。先生の運転なさる車に一緒に乗って行ったことを憶えているのですが、途中でどんな会話があったのかは全然思い出せないのです。ただ車で走っている時は、先生は別人のような話し方をするからビックリしないで……と前もって教えていてくれたので驚かずにすんだことを何故か今でもおぼえているのです。いつでもまわりの人に細やかに気をくばる方だったのでしょうか。大きな声を出していることとはなかつたと思います。いつのことだったか、会館の古いピアノのところでシヨバンのソナタのレコードを持ってきてこの曲を弾いてみて、とジャケットの

裏に印刷された楽譜を示され、下手な弾き方ではじめの部分の音をひろったのに、ああそうそうそんな曲……、やさしいもの言いをしてくれたことを忘れないでいます。私が四国の病院に手紙を出したとき、こは地の果てでとても来てもらえる所ではないからと返事をくださいました。結局そのままになって、今はいつでも私の心の中に静かにいるのです。

山下さんに捧げる詩

加藤望

昇さん、あなたは決して人を攻撃することなく受容する人だった。教会、ELとの関わり、日々の生活、シンガポールとベルギーでの転勤時代、様々な何気ない場面でもあなたの秘められたエネルギーは充電されながらさわやかに、時には寂しげに時にはためらいがちに発光していた。

あなたは束縛せず束縛されない心の絆を私たちにもたらし残してくれた。あなたの柔和な笑顔とおごらない精神は、あなたが神様とあうんの呼吸で人間とは真摯な呼吸で生きてこられた証であった。

冬空の下で露地に咲いていた淡紅色のかんつばき(花言葉「気どらない優美」)の茎が不意に折れたかのように、あなたのまだ若き肉体は56年の人生の風波

にゆれて散った。そんなあなたの耳もとに今、ブネウマの風にのせてささやきたい言葉がある。「山下昇さん、あなたは愛すべき人だった。そして愛すべきインマヌエル昇さんの魂の遺伝子は、地上の私たちと私たちの教会の新しい細胞として生き続ける……」と。



想像する勇氣

森田麻里子

2月15日に立教のチャペルで尹東柱(ユン・ドンジュ)追悼集会・公開講演会がありました。主催は「詩人尹東柱を記念する立教の会」です。昨年の「リレートーク」でもご紹介しましたが、尹東柱は韓国で多くの人に読まれ、愛されているクリスチャン詩人です。1942年4月に立教大に入学し、秋に同志社大に転学、1943年7月に独立運動の容疑で逮捕、1945年2月16日に福岡刑務所で獄死しました。

朝日新聞夕刊に追悼集会が紹介された事もあり、チャペルは満席でした。柳時京(ユ・シギヨシ)チャプレンが追悼の歌として「十字架」を歌われました。柳チャプレンの優しいお声は心深

く沁み通りました。天国の尹東柱も慰められたと思います。

立教大学総長室長がご挨拶され、「立教大学で尹東柱奨学金設立が決定した。」とご報告されました。詩人尹東柱の迫害を記憶し、日韓の若い人達の平和を繋ぐ奨学金は尊いと思います。立教大学図書館では尹東柱の資料が展示され、重厚な雰囲気の中で尹東柱が静かに呼吸しています。

戦前・戦時中の日本の加害行為を聞き、学ぶ事は学生にとって辛い事だと思えます。しかしかつてこのキャンパスを歩いた、韓国人学生の心身の苦しみを想像する勇氣を持つて欲しいと願います。京都聖三教会の井田泉司祭が訳された詩をご紹介します。

「序詩」

尹東柱

死ぬ日まで天を仰ぎ
一点の恥なきことを
木の葉に起こる風にも
わたしは苦しんだ。
星をうたう心で
すべての死んでゆくものを愛さなければ
そしてわたしに与えられた道を
歩みゆかねば。
今宵も星が風に吹きさらされる。
(1941.11.20)

まじわり

退職司祭 梅本芳哉さん

昨年（2008年）のいつ頃か、主日礼拝に姿を見せるようになった。「あの方どなただろう」と思われた方も少なくあるまい。そのうちにBSA（ペンデレ同胞会）の月例会にも参加するようになった。寡黙だがごく自然に三三教会に仲間入りした感じだ。筆者は初めて分かったことだが、退職司祭は特定の教会に所属することはできないというのだ。



「退職者の教籍は教区にある。だから（退職後でも）三三教会を含めて教区内の教会に行くことには遠慮がある」と梅本師は言う。この

ことは聖公会の規則なのか、不文律なのかは定かでないが、一般信徒の思いからするといささか合点のかぬ事柄ではある。

梅本師は、ある牧師の感化と導きで、ごく自然に召命感が芽生えて聖職を志したという。そして聖公会管区創世100周年に当たるとして1958年、聖職候補生として当時、青山にあった東京聖三教会の主日勤務を皮切りに、神田キリスト、聖マーガレット、聖パトリックなどの各教会の牧会に従事してきた。

1979年いったん依願休職。その後、知的障害者のスポーツ振興のため「スペシャルオリンピック」東京都知的障害者スポーツ協会の設立、運営に携わった。そして1991年に聖職を退職した。「信徒の皆さんの奉仕活動やいろいろな行事を垣間見ていると、さすが三三教会と思うことが多々あります。長谷川司祭はじめ皆さんが暖かく受け入れてくださるので、つい、遠慮を忘れてしまうほどです」（編集子）



フレデリック諸聖徒教会
新任牧師の紹介

八幡真也

メリーランド州フレデリック諸聖徒教会の前牧師であったジムシール司祭が2005年に退職以降空席になっていた正牧師に、トムモンバーク司祭が就任されたので、本人からの紹介文を記載致します。

米国聖公会では牧師は招聘制度で教会に就任する仕組みです。私は2007年11月に召命をうけフレデリック諸聖徒教会牧師に就任しました。それ以前は6年間テネシー州メンフィス市にあるチャーチオプ・ホーリーコミュニティ※日本語訳で適切な言葉が見つかりませんの副牧師でした。主に信徒の心のケアと社会正義に関する課題を担当しました。この教会では青年時代に聖歌隊に属し、アコライトの奉仕もしました。又、教会の信徒の家に新聞配達をして、バイト代を稼ぎました。自分を育ててくれたこの教会に聖職になつてから奉仕をする事が出来た事は、とても喜ばしい事でした。

私はロードアイランド州ブラウン大学で民族音楽学を専攻し、学士号を取得、卒業後保険会社で13年間仕事に就いた後、神学校に入学し、

1986年にニューヨークにあるゼネラル神学校を卒業しました。卒業後米国聖公会シカゴ教区で司祭按手を受け、同教区・西ベンシルバニア教区・カンサス教区・西テネシー教区の諸教会で勤務、その間病院のチャプレンの訓練も受けました。私には聖公会の司祭である妻と二人の子どもがいます。趣味は音楽・映画鑑賞・読書ランニング等です。

新たにメリーランド教区主教に就任されたユージン・サットン主教は、昨夏初めてランベス会議に参加し、各国の主教と時間を共有する事により、教区間・教会間の姉妹関係が重要である事を学び、その事を我々聖職に訴えています。私も同感です。従って近い将来東京聖三教会の牧師・信徒の皆さまにお会いできる機会が来る事を願っています。

働きグループへのお願い

毎年皆様ご自身に書き込んでいただいている働きグループのメンバー表ですが、より選択しやすいうような表を計画中です。今年も宣教委員会と共同で教会の働きをより良く出来るように考えています。イースター後に張り出せるよう予定しています。

（総務委員）

教会委員会議事録抜粋2008年12月～2009年2月

<12月>

- ・受聖餐者総会は2009年2月8日に開催する。
- ・バザー収益奉献先の追加。先に支出したものを除いた45万円を、日比ヶ橋基金10万円、NCC海外医療協力会10万円、エリザベス・サンダースホームに25万円を奉献。
- ・世田谷宗教者懇話会主催「世界平和を祈る集い」が11月22日に当教会で開催され、超宗教ゆえに目が開かれる体験であった。懇話会事務局に献金を宣教費から捧げる。
- ・教会委員選挙について=現在受聖餐者資格(年2回の聖餐式出席)の把握に課題がある。選挙管理人の公示と同時に受聖餐者資格の有無について確認の必要がある場合は申し出を呼びかける。
- ・祭壇奉仕=秋山俊哉兄(聖十字教会信徒)はハイチャーチの礼拝を学びたいという研修的な申し出で。教区主教、聖十字教会、および長谷川司祭の判断で承認。
- ・宣教委員会報告=次年度委員会は毎月の開催を予定。会衆退堂時に司祭が個別に挨拶できるように要望し、近く実現される予定。
- ・礼拝担当者会報告=礼拝での報告は、黙禱後に報告し、その後退堂聖歌に変更の予定。
- ・会計報告=11月末で約360万円の赤字。予算委員会は12月6日と27日に開催する。
- ・東京教区信仰と生活委員会=委員会の働き、定義が毎回議論の対象になる。まずは東京教区に宣教委員会が無いことに疑問がある。組織改革を提案したい。
- ・食の会(愛餐会と食事準備)=次年度責任者は小林幸子氏。BSAが4月、9月、11月、ぶどうの木が7月、他の月を旧婦人会メンバーと小林氏がコーディネートした人たちが担当する。

<1月新旧委員合同>

- ・教会委員会の各担当を決定した。
- ・教区信徒代議員の選出=本多峰子、後藤務、加藤啓子、(補欠千村雅信)の各氏。聖三一教会の代議員選出方法は教区の正規の選出方法とは違うという意見が出たが、今年も従来どおり教会委員の互選での選出に決定した。

・会計報告=2008年度の経常内赤字は、主として教区分担金の増加による。経常外では聖堂補修追加費と韓国訪問援助費があった。

<2月>

- ・大斎研修=主題「聖公会とはどういう教会か」。2月25日大斎始日(灰の水曜日)、3月1日から29日の毎主日に講話と証しが行われ、3月14日には大斎静想会がナザレ修女会にて行われる。大斎節中は毎朝7時30分から聖餐式が捧げられる。
- ・ガザ地区人道支援=財政難の現状を考える意見があったが、教会として支援を行う。
- ・受聖餐者総会のふりかえり=聖三一教会の教区信徒代議員選出方法が教区の正規の選出方法と違うとの意見に対し、2009年度は現在の選出者を承認し、2010年度の受聖餐者総会にて信徒代議員選出方法を提案する。
- ・エル公会=故山下昇兄の逝去記念式を予定。
- ・宣教委員会報告=2009年度第1回宣教委員会を2月15日に開催する。
- ・映画会の予定=5月17日、8月16日、11月15日。8月は子どもも楽しめる映画の予定。
- ・壮年会報告=イースター前の清掃は4月4日から5日に実施の予定。男性と女性が協力し何かを行いたい、「言いつばなし会」の開催を、などの要望。
- ・メンテナンス報告=エレベーターからの緊急連絡をメンテナンス会社に直接連絡する方法について、費用を調べている。
- ・山手教会グループ=2009年度は聖愛教会が幹事教会。山手グリーンデーピクニックを4月29日(土・祝)に神学院で開催する。
- ・ぶどうの木=2009年度の「こどもとともにささげる聖餐式」の日程を決めた。
- ・東京教区障害者関連活動連絡会から、火災で焼失したメルヘン・コイノニア(知的、精神障害者作業所)への支援要請があり、募金を行うとともに、教会も献金を行う。

オカヤドカリに想う

森田信也

ヤドカリ：海辺で遊んだ想い出があるかもしれません。そう、岩場や砂浜をチョコチョコ動き回る愛嬌のある身近な生き物ですが、亜熱帯には、陸に上がって暮らす「オカヤドカリ」という種がいます。母親は海辺で産卵し、子ども（幼生）の時は海で過ごし、陸に上がり成長するにつれて、脱皮し、ヤド（貝）を換えながら大きくなり、20〜30年も生きるそうです。

もともとは、危険が多い海か

ら上がって陸に住むようになったようですが、ヤドは巻貝ですのでいつも海の近くにいます。

私たちの教会生活も似ているところがあるかもしれません。海（社会）から離れ、安らかな陸（信仰）へ、そして宿（教会）も成長に応じて代わっていきます。ヤドカリは自分の宿をどのようにして選ぶか？美しい色とりどりの貝？それとも敵の目を避ける目立たない貝でしょうか。そして、必ず自分の身の丈に合った大きさの貝に変えていきます。

情報交換の場が持たれませんでした。学校に深く関係する教会、幼稚園や保育園、社会福祉施設を併設する教会も少なくありませんし、礼拝の場だけではない社会活動に深く関わっている教会もあります。このような教会には自分たちだけでは、将来計画を決めることはできない悩みもありました。一方で、維持していくことも難しい教会があることも事実です。

このような視点から私たちの教会を考えると立地・敷地に恵まれていることに感謝する一方、このままでよいのだろうかという疑問も出てきます。海外のミッションを含め先輩の方々のご苦労により私たちの教会は建てられました。神様から与えられた教会、私たちはヤドカリ：。与えられた教会をどのように生かしていけるか、そして危険な社会に対しても貝の中で閉じこもってはいけなさと想うこの頃です。

牧師動静

12月	9日(火)	古川さよ子(未信徒)姉、納棺式、通夜式
	10日(水)	古川さよ子姉、葬送式
	14日(日)	クリスマス・コンサート
	18日(木)	香山愛子姉、逝去祈祷、納棺式
	20日(土)	故生川又平姉記念レクイエム
	21日(日)	ぶどうの木ページェント、香山愛子姉通夜式
	22日(月)	香山愛子姉葬送式
	24日(水)	降誕日前宵祭キャロリング、キャンドルサービス、深夜ミサ
	25日(木)	降誕日第2聖餐式、第3聖餐式
	27日(土)	第2回予算委員会
	28日(日)	聖十字教会委員会、山手グループ牧師会
1月	1日(木)	主イエス命名日(新年礼拝)
	9日(金)	聖書を読む夕
	13日(火)	銀座朝拝会(講話)
	17日(土)	教区教会委員祝福式、壮年会総会、新年会
	18日(日)	松原カトリック教会早期聖餐式説教(キリスト者一致週間)
	21日(水)	芝公園将来計画教区側委員と主教の懇談会
	23日(金)	山手グループ牧師協議会
	27日(火)	芝公園将来計画委員会
	31日(土)	故香山愛子姉埋葬式(多摩墓地)
2月	1日(日)	教区被献日前夕礼拝(説教)
	4日(水)	園田雅子姉見舞い(船橋中央病院)
	18日(水)	山手グループ牧師協議会
	19日(木)	芝公園将来計画委員会
	20日(金)	谷中墓地委員会(聖テモテ教会)、柴田早智子姉聖信準備
	24日(火)	聖マッテヤ日聖餐式、聖書を読む会
	25日(水)	大斎始日(灰の祝別式、聖餐式)
3月	1日(日)	大斎講話第1回(西原廉太郎祭)、礼拝委員会

*通常のプログラムは外してあります。

信徒動静

転入	森 尚子、藍香、悠哉	2008年12月16日
転出	高村 光、悦子	2009年 2月25日
	半田 孝太	2009年 3月 3日
誕生	芹澤 健一、良実夫妻の長女実緒	2008年12月24日
	河合 宏明、由美子夫妻の長男涼太	2009年 2月17日

礼拝集会案内

主日礼拝	日曜日	聖餐式	午前八時三十分
			午前十時三十分
			午後四時
週日の礼拝	夕の礼拝		
木曜日	聖餐式		午前十時三十分
教会暦の定める祝日	聖餐式		午前十時三十分
ぶどうの木(こどもの礼拝)	日曜日		午前九時三十分
集会	壮年会		毎月第一日曜日
	BSLの会		適宜
	CHIGHI倶楽部		適宜
聖書を読む会	火曜日		午前十時三十分
聖書を読む夕べ	第二金曜日		午後七時
代沢こども文庫	第三水曜日		午後時